

ほほ月刊 んだもしたん

(諸県弁の「まあどつした事でしょう」)

発行 有限会社ナツプ
編集責任 池田誠
発行日 平成二八年五月
問合せ先 〇九八五五二七四〇九

「素晴らしき蘭の世界へ！」

―熊本・大分地震について―
熊本県・大分県を中心とした一連の地震により、亡くなられた方々、被災された方々に、心よりお見舞い申し上げます。併せて、被災者救出・復興支援にご尽力されている方々に、深く敬意を表します。

地震当初、弊社のスタッフは、会社行事にて宮崎と福岡を車で往復をいたしました。九州道、大分道ともに通行不可能な箇所があり、長い渋滞の列の中、国道をユックリと走りました。その途中で目に入ったのは、まさしくニュー・ス映像で見た、破壊・倒壊した建物でした。コンビニも飲食店も営業の様子は見られず、道の駅の駐車場は、被災した方々の車で一杯に埋まっております。

かつては富貴・高雅な人たちの趣味とされた蘭。古くは聖武天皇の時代(724)に唐から中国蘭が献上されたという記録があります。室町時代には寺院で盛んに栽培され、江戸時代に入ると春蘭、寒蘭といった日本蘭が將軍家をはじめ武士階級の間でもてはやされてきました。

ただけでは殖やすことができない蘭は、たしかに栽培がむずかしい植物ですが、人が丹精すればするだけ、それに応えてくれる。これもまた蘭の魅力のひとつといえるでしょう。

進化の最終ランナーといわれる蘭の仲間、その類いまれな適応力で極地と砂漠のぞく世界中に分布して、その種類は750属25000種に及び、交配種では10万種もあるといわれています。単にコレクターとしての心理だけをご想像いただいても、蘭がいかに奥深い世界であるかわかりと思えますが、これだけ多様に適応するということは、生物として変化をみせやすい、つまり人のかけた手間に応えてくれるということでもあります。ふつとに種を蒔

葉や花の美しさ、植物としての生命の輝き、愛好家の長い長い丹精、それらが織りなす蘭の素晴らしき世界、辛い近年では技術が進んで栽培も容易になり、かつて、その価値は家一軒といわれた名品でも、手軽に求めることができようになったものもあります。蘭とごともに暮らす豊かな生活は、きっと想像以上の人生価値を与えてくれると思えます。



ランチ野郎 見参!

「ラーメン屋のフレンチとは?」『げんこつ屋』の巻
大崎町は、鹿児島県の東南部にある町で、曾於郡に属します。国指定の重要文化財である横瀬古墳などの史跡を有する町でもあります。

『げんこつ屋』はカプトムシのモニュメントが有名な「大崎ふれあいの里公園」と道の駅「くにの松原おむき」から10分程度の距離にありますが、外観はごく普通の田舎のラーメン屋です。



ご飯、チキンカツにハンバーグ、カレー風味のポテトサラダにはサツマイモのチップスとレンコンスライスが飾り付けてありました。

ハンバーグのソースはデミグラスソースかチリソースの2種類から選べます。11時から営業していますので、早めに行ったほうがいいかもしれません。12時を過ぎると地元の人が続々と入ってきて、すぐに満席になりますよ!

地元の方は、値段がどう変わるのかよく分かりませんが小ラーメンを普通のラーメンにしたり、大盛りラーメンにして注文していました。

ここでのお勧めは何と言っても930円のラーメンランチです。ラーメンランチの内容は、前菜・小ラーメン・ハンバーグ・チキンカツ・ご飯、がセットになっています。まずは前菜から、和牛のカルパッチョもしくはエビ、ホタテ、サーモン、

2人で行く時はその前菜を別々に頼んで、シェアしながらゆっくりお喋りを楽しんで下さい。というのも、お客様の状況によってはメインが出てくるまで20分くらい待つときがあるからです。そして、いよいよメインの登場です。ラーメンに



いんちきクワイマーが行く！

「傾山(かたむきやま)」編 最終回

元気を取り戻し足取りも軽く、やがて山頂の直下へ。やれやれ最後の難関だ。前方から二人組のオバサマ登山者が下ってきた。挨拶すると、私の大きな装備をじっと見て、泊まりですか？ いいなあ。と声をかけてくれた。ホントはヘロヘロなんだけど、いかにもベテランっぽいクールさで、「ええ、まあ」と返します。見栄っぱりなんです。バカだねえ。笑顔で別れていざ山頂へ。えーと…どこから上がるの？小さなハシゴを発見。そうかここからか、とガシガシと登っていくと、道が崩落している。いや、あるにはあるがこれは道ではなく、宙に浮き出た木の根…。じつくりとみると、木の根の出っ張りとおロープを使えば、クリアできそう。落ちたら、死なない程度の大怪我…。傾山は最後までワイルドだぜ。神よ、我に艱難辛苦を与えたもつ…、道を何回も間違えながら登り続けると、大きな看板がみえてくる。いよいよ山頂だ。やっと着いたよ、ふう。時間は三時。日帰りのみなさ

んは、もう下りにかかる時間帯で、山頂は独り占め状態。これまで歩いてきた稜線を振り返り、これから歩いていく稜線を目で追う。遅くなった弁当をひろげる。そりゃもう格別のお味。曇り空なれども、そこそこ視界は開き、ここまで苦しんで来た三つ坊主、二つ坊主、前傾の山並みが、目を左にやると宮崎県最高峰の祖母山や障子岳がよく見えます。景色が見たくて登るわけではなく、自分を苛めたくて登るわけでもないのですが、山に登る行為というそのものが、沢山の付加価値や喜びや感激を与えてくれるのが、毎回、本当にありがたいと思えます。汗が引いて、寒さを感じはじめ、もう少し休憩したい気持ちと、早く動きたい気持ちで、山頂をあとに。「後傾」を越え、道が平坦になるまでは、しばらくきついで下りが続きます。そして鹿ネットが左右にある、気持ちのいい、長い一本道がはじまり場所が現れました。九折越広場のテント場です。やっと荷を下ろせる！ ここには山小屋もあり、先客が二名おりました。中はキレイで片付いていますが、どうみても寒そう。ここから日之影方面に70mほど下ると水場です。とっとと水汲みに。さっとテントを組んで、珈琲を沸かして、一眠り。寝袋にもぐりこむと、昼間の疲れか、ご飯作るのも面倒くさくなって、そのままとうとう。九折越広場は鹿のパラダイス。逃げないのです。普通は、登山道で出会おうものなら、脱兎の如く逃げる鹿ですが、この鹿は呑気です。夜中に何度もテントをスリスリしに来て、困りました。そんなこんなで、ようやく傾山と仲良くなれたでしょうか。とにかく無我夢中で、楽しめたかどうかは、また別…。達成感はあるけど、次回は、もっと楽しめるようになってほしいなあ。(おしま)(賢)



走 RUN といかん！

このたびわが社では、10月の「綾葉樹林マラソン」を社員全員で走ろう！ という目標をかかげることにしました！

走る距離はまだ未定ですが、社員で一つの目標に向かい、頑張っていきたいと思えます。目標をかけたからには、最後までやりきりたいと思いますが、いきなりさあ走ろうなどとゆう、無謀なチャレンジはよろしくありません。なので、マラソン当日に向けて、少しずつ練習していかねばなりません！

長距離は努力と力が必要です。試合などのように、タイムなどを競うものではありませんが、ある程度の練習が必要になってきます！

回を読んでいただいている皆さまにも、ぜひ走っていただきたいランニングスポットを、ご紹介していきたいと思えます！

まず、定番の大淀川河川敷。平らな道が続いており、非常に走りやすい道です！ 膝への負担が心配な時は、



今回の熊本、大分地震で被災された皆様へ、心よりお見舞い申し上げます。被災地の復興は、これからです。記憶を風化させる事なく、何が出来るのかを常に考え続けていく事が大切だと思います。震災という事で「んだもしたん5月号」は休載とすべきではないかという声も内部にはありましたが、被災を免れた私たちが後ろ向きではないかと思ひ、発行させていただきます。

5月号は鎮を含む内容で行こうと編集会議で決めていたので、蘭に関する記事、ランチの記事、走るRUNの記事と、らんらんらの三連発として掲載してみました。私個人としては、うまく書いているのではないかと思います。いかがでしょうか。次号は、社員旅行の台湾道中記など、盛り沢山の内容を、掲載予定ですので、お楽しみにしてくださいね。(誠)

編集後記